

表 6.8-87 コシダカシタラガイに係る予測結果

種名 (分類群)	コシダカシタラガイ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	本州、四国、九州、伊豆諸島、壱岐、屋久島、宝島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。分布は広範囲だが、生息地が限られ、生息個体数は非常に少ない。	
確認状況	飛行場及び土砂採取区域改変区域内外樹木の倒木下や朽木下等で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場 (延伸した滑走路等) 及び土砂採取区域の存在により確認個体数の半数以上が分布するエリアが直接改変される。以上より、本種の生息環境のほとんどが影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-88 ウメムラシタラガイに係る予測結果

種名 (分類群)	ウメムラシタラガイ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL : 準絶滅危惧 県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	本州、四国、九州、宇治群島向島、屋久島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。比較的良好な林にしか生息しないため、森林の環境指標生物として重要である。	
確認状況	飛行場改変区域の樹木 1 箇所まで 1 個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場 (延伸した滑走路等) の存在により、ウメムラシタラガイの確認環境が直接改変を受ける。以上より、本種の生息環境は影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-89 オオクラヒメベッコウに係る予測結果

種名 (分類群)	オオクラヒメベッコウ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	本州、四国、対馬、九州南部、大隅諸島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。	
確認状況	飛行場及び土砂採取区域改変区域内外樹木の倒木下や落葉下で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場 (延伸した滑走路等) 及び土砂採取区域の存在により確認個体数の半数以上が分布するエリアが直接改変される。以上より、本種の生息環境のほとんどが影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-90 タネガシマヒメベッコウに係る予測結果

種名 (分類群)	タネガシマヒメベッコウ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	九州、大隅諸島、奄美諸島、沖縄に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。	
確認状況	飛行場改変区域内及び土砂採取区域改変区域内外樹林の倒木下や落葉中で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場 (延伸した滑走路等) 及び土砂採取区域の存在により確認個体数の半数以上が分布するエリアが直接改変される。 以上より、本種の生息環境のほとんどが影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-91 コシダカヒメベッコウに係る予測結果

種名 (分類群)	コシダカヒメベッコウ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL : 準絶滅危惧 県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	屋久島、種子島に分布する。本種は殻高 3.0mm、殻径 3.5mm 程度の微小な貝で、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息しており、生息にはある程度湿度の保たれた森林が必要である。	
確認状況	土砂採取区域改変区域内外樹林の落葉中や朽木下で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	土砂採取区域の存在により確認個体数の半数以上が分布するエリアが直接改変される。 以上より、本種の生息環境のほとんどが影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-92 ヤクジマシタラガイに係る予測結果

種名 (分類群)	ヤクジマシタラガイ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	甌島、佐多岬、屋久島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。	
確認状況	飛行場改変区域内及び土砂採取区域改変区域外樹林の樹上で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場 (延伸した滑走路等) 及び土砂採取区域の存在により確認個体数の半数以上が分布するエリアが直接改変される。 以上より、本種の生息環境のほとんどが影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-93 ソコスジカサキビに係る予測結果

種名（分類群）	ソコスジカサキビ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：情報不足 県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	薩摩地方、屋久島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。	
確認状況	飛行場改変区域の樹林で2個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）の存在により、ソコスジカサキビの生息地が直接改変を受ける。 以上より、本種の生息環境は影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-94 ヤクジマベッコウに係る予測結果

種名（分類群）	ヤクジマベッコウ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：情報不足 県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	屋久島、口永良部島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴い減っている。	
確認状況	飛行場及び土砂採取区域改変区域内外樹林の落葉中や朽木下で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。 以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてヤクジマベッコウの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-95 タカカサマイマイに係る予測結果

種名（分類群）	タカカサマイマイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：準絶滅危惧 県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	薩摩半島、大隅諸島、トカラ列島、奄美諸島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地には比較的多いが、森林の減少に伴って生息地が減っている。	
確認状況	飛行場及び土砂採取区域改変区域内外樹林の樹幹や朽木下等で多くの個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。 以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてタカカサマイマイの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-96 クチジロビロウドマイマイに係る予測結果

種名（分類群）	クチジロビロウドマイマイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類 県 RDB：絶滅危惧Ⅱ類	
分布・一般生態等	屋久島の固有種である。本種は落ち葉の下や倒木下など、かなり湿度の高い環境に生息しているが、個体数は少ない。湿度の保たれた森林と、落ち葉が溜まりやすく湿度が保たれ易い岩場の隙間や倒木などの環境が必要である。	
確認状況	飛行場改変区域及び土砂採取区域改変区域内外樹林の大木下等で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）及び土砂採取区域の存在により確認個体数の半数以上が分布するエリアが直接改変される。 以上より、本種の生息環境のほとんどが影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-97 ヘソカドケマイマイに係る予測結果

種名（分類群）	ヘソカドケマイマイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：準絶滅危惧 県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	薩摩半島南部、大隅諸島、トカラ列島に分布する。本種は樹上性で、照葉樹林の木々や草に付着している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。	
確認状況	確認個体は少ないものの飛行場改変区域内外樹林で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）の存在により確認個体数の半数以上が分布するエリアが直接改変される。 以上より、本種の生息環境のほとんどが影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-98 ツバキカドマイマイに係る予測結果

種名（分類群）	ツバキカドマイマイ（陸産貝類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類 県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	伊豆諸島、薩摩半島・大隅半島南部、大隅諸島、トカラ列島に分布する。本種は樹上性で樹幹や葉上に生息しており、湿度の保たれた森林が必要である。	
確認状況	飛行場及び土砂採取区域改変区域内外樹林の樹上で多くの個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場（延伸した滑走路等）及び土砂採取区域の存在により確認個体数の半数以上が分布するエリアが直接改変される。 以上より、本種の生息環境のほとんどが影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-99 ヤクシマイマイに係る予測結果

種名 (分類群)	ヤクシマイマイ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類 県 RDB: 絶滅危惧Ⅱ類	
分布・一般生態等	屋久島、種子島に分布する。本種は落ち葉の下や樹幹に生息しており、生息にはある程度湿度の保たれた森林が必要である。	
確認状況	飛行場及び土砂採取区域改変区域内外樹林の樹上や落葉上で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場 (延伸した滑走路等) 及び土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その範囲は限定的であり、地域としてヤクシマイマイの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-100 チャイロマイマイに係る予測結果

種名 (分類群)	チャイロマイマイ (陸産貝類)	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB: 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	佐多岬、大隅諸島、トカラ列島に分布し、照葉樹林を中心とした林床の落葉層に生息している。生息地が自然林に限られており、林の減少に伴って減っている。	
確認状況	飛行場改変区域内外の樹林において多くの個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	—
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場 (延伸した滑走路等) の存在により確認個体数の半数以上が分布するエリアが直接改変される。以上より、本種の生息環境のほとんどが影響を受けると予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	—

表 6.8-101 オカヤドカリ類に係る予測結果

種名 (分類群)	オカヤドカリ類 (オカヤドカリ類)
保護上重要な種の選定基準	文化財保護法等：天然記念物指定種 (国)
分布・一般生態等	文化財保護法では、屋久島に分布する種でムラサキオカヤドカリ、ナキオカヤドカリ、オカヤドカリが天然記念物の指定を受けている。現地調査で確認された個体は形態などからこれらの中の1種であると考えられる。夜行性で、昼間は林や海岸近くの草むら、石の下に潜んでいて、夜になると砂浜や水辺に出てきて餌をあさる。雑食性で、野菜類や魚介類を好んで食べる。
確認状況	飛行場周辺で多くの個体が確認された。確認箇所は、海岸林が連続する場所であった。
予測結果	造成等の施工による一時的な影響 オカヤドカリ類は陸域動物であるものの、生活史の一部 (幼生の時期等) を海域で過ごすことから、造成等の施工による一時的な影響についても予測を行った。 工事中に発生する濁水の流入により、河口付近の上層においてのみ浮遊物質量がわずかに変化するものの、その変化量は極めて小さい (「6.5 水質の予測結果」)。 また、河口付近にシルト・粘土分が堆積するおそれがあるものの、開放水域であること及び波浪や潮流により拡散することから底質の性状に大きな変化は生じない (「6.6 低質の予測結果」)。 以上より、オカヤドカリ類の生息環境に影響はないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在 オカヤドカリ類の生息地は直接改変を受けず、生息環境に変化はない。 以上より、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	航空機の運航 —
	飛行場の施設の供用 オカヤドカリ類は陸域動物であるものの、生活史の一部 (幼生の時期等) を海域で過ごすことから、飛行場の施設の供用の影響についても予測を行った。 飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後に放流されるため、周辺環境への影響はほとんどない (「6.5 水質の予測結果」)。 以上より、オカヤドカリ類の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-102 ニホンウナギに係る予測結果

種名 (分類群)	ニホンウナギ (魚類)
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：絶滅危惧 I B 類 県 RDB：絶滅危惧 I 類
分布・一般生態等	成魚の全長は 1m 程度。鹿児島県内では島嶼を含む各地に分布している。降河回遊魚で、河川で 4~15 年過ごし、繁殖のために海に下る。河口付近の沿岸域から上流まで広く生息するが、流れの緩やかな中流から河口、内湾にかけて多い。
確認状況	河川で生息が確認された。
予測結果	造成等の施工による一時的な影響 工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない (「6.5 水質の予測結果」)。 このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在 ニホンウナギの生息地は直接改変を受けず、生息環境に変化はない。 以上より、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	航空機の運航 —
	飛行場の施設の供用 飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後に放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。 このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-103 オオウナギに係る予測結果

種名 (分類群)	オオウナギ (魚類)	
保護上重要な種の選定基準	水産庁 DB : 減少種	
分布・一般生態等	成魚の全長は 1m 程度。鹿児島県内では島嶼を含む各地に分布している。降河回遊魚で、河川で 4~15 年過ごし、繁殖のために海に下る。河口付近の沿岸域から上流まで広く生息するが、流れの緩やかな中流から河口、内湾にかけて多い。	
確認状況	調査では、河川で生息が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。また、飛行場の存在により移動経路の一部 (滑走路下を流下する暗渠) が改変を受けるものの、現況遡上障害は発生しておらず、改変後の暗渠は現況と同程度の形状 (勾配、落差等) を維持させる計画であることから、変化は小さい。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その区域及び期間は限定的であり、地域としてオオウナギの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-104 アカボウズハゼに係る予測結果

種名 (分類群)	アカボウズハゼ (魚類)	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL : 絶滅危惧 I A 類 県 RDB : 絶滅危惧 I 類	
分布・一般生態等	成魚の全長は 50 mm 程度。鹿児島県内では種子島、屋久島、奄美大島から知られている。樹林に囲まれた水の清澄な河川の渓流域に生息する。流れの緩やかな淵にて、転石上に定位している。	
確認状況	河川で生息が確認された。いずれも全長 30 mm 程であり、未成魚と考えられる。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	アカボウズハゼの生息地は直接改変を受けず、生息環境に変化はない。以上より、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-105 ルリボウズハゼに係る予測結果

種名 (分類群)	ルリボウズハゼ (魚類)	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類 県 RDB: 絶滅危惧Ⅱ類	
分布・一般生態等	成魚の全長は 120mm 程度。鹿児島県内では種子島、屋久島、口永良部島、奄美大島に分布している。河川生活期は、水の清澄な河川の中流域～上流域に生息する。海洋生活期については不明。	
確認状況	河川で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない(「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	ルリボウズハゼの生息地は直接改変を受けず、生息環境に変化はない。以上より、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない(「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-106 モクズガニに係る予測結果

種名 (分類群)	モクズガニ (甲殻類)	
保護上重要な種の選定基準	水産庁 DB: 減少傾向	
分布・一般生態等	北海道、本州、四国、九州、琉球列島、小笠原諸島に分布する。本種は降河型の通し回遊を行うため、河川の上流域から汽水域及び内湾域を中心に潮間帯、浅海域に広く生息する。	
確認状況	河川や湿地で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない(「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。また、飛行場の存在により移動経路の一部(滑走路下を流下する暗渠)が改変を受けるものの、現況遡上阻害は発生しておらず、改変後の暗渠は現況と同程度の形状(勾配、落差等)を維持させる計画であることから、変化は小さい。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その区域及び期間は限定的であり、地域としてモクズガニの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない(「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-107 ケフサヒライソモドキに係る予測結果

種名（分類群）	ケフサヒライソモドキ（甲殻類）	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	神奈川県～南西諸島、伊豆諸島南部に分布する。内湾、河口域中部の石の下や隙間に生息する。タイワンヒライソモドキが同じ場所で見られることがある。	
確認状況	河川において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない（「6.5 水質の予測結果」）。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その区域は限定的であり、地域としてケフサヒライソモドキの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後に放流されるため、現況から大きな変化はない（「6.5 水質の予測結果」）。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-108 タイワンヒライソモドキに係る予測結果

種名（分類群）	タイワンヒライソモドキ（甲殻類）	
保護上重要な種の選定基準	海洋生物 RL：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	千葉県（太平洋側）・鳥取県（日本海側）～琉球列島に分布し、内陸の干潟、河口域上部で淡水の影響が強い砂泥底にある石の下に生息する。	
確認状況	河川において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない（「6.5 水質の予測結果」）。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その区域は限定的であり、地域としてタイワンヒライソモドキの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後に放流されるため、現況から大きな変化はない（「6.5 水質の予測結果」）。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-109 ベンケイガニに係る予測結果

種名 (分類群)	ベンケイガニ (甲殻類)	
保護上重要な種の選定基準	海洋生物 RL : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	千葉県 (太平洋側)・秋田県 (日本海側) ~ 琉球列島に分布する。河川の下流 ~ 中流の川岸や海岸近くの草地、湿地、水田の周辺等に巣穴を掘って生息する。産卵期は 7~9 月で雌は約 1 か月抱卵した後、川岸や海岸へ移動し、幼生を放つ。	
確認状況	河川や湿地において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。また、飛行場の存在により移動経路の一部 (滑走路下を流下する暗渠) が改変を受けるものの、現況遡上阻害は発生しておらず、改変後の暗渠は現況と同程度の形状 (勾配、落差等) を維持させる計画であることから、変化は小さい。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その区域及び期間は限定的であり、地域としてベンケイガニの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-110 コツノテナガエビに係る予測結果

種名 (分類群)	コツノテナガエビ (甲殻類)	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	体長 90~120 mm 程度の大型種。鹿児島県内では大隅半島南西部、屋久島、口永良部島、中之島から知られている。河口から上流域まで生息し、比較的流れの速く、裸岩や転石が卓越する淵に生息する。	
確認状況	河川や湿地において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その区域は限定的であり、地域としてコツノテナガエビの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-111 ミナミテナガエビに係る予測結果

種名 (分類群)	ミナミテナガエビ (甲殻類)	
保護上重要な種の選定基準	水産庁 DB : 減少種	
分布・一般生態等	神奈川県、静岡県、岡山県、島根県、高知県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県 (種子島から沖永良部島を含む)、沖縄県 (沖縄本島から八重山諸島まで)、小笠原諸島に分布する。本種は琉球列島では河川の河口部から上流まで生息するが、九州以北では河口～中流域に分布する。河川の深みのある緩流域等に生息する。	
確認状況	河川において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その区域は限定的であり、地域としてミナミテナガエビの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-112 ツブテナガエビに係る予測結果

種名 (分類群)	ツブテナガエビ (甲殻類)	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL : 準絶滅危惧 県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	体長 60～80 mm程度のやや大型な種。鹿児島県内では口永良部島と屋久島から知られている。奄美大島からの報告もある。河口から中流域に生息し、比較的流れの速い流心部に棲む。河口から直ぐ渓流域になるような急勾配の小河川を好む。	
確認状況	河川において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	ツブテナガエビの生息地は直接改変を受けず、生息環境に変化はない。以上より、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-113 ヤマトヌマエビに係る予測結果

種名 (分類群)	ヤマトヌマエビ (甲殻類)	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	体長 30~40 mm 程度の中型種。鹿児島県内では薩摩・大隅半島、甌島列島、宇治群島、大隅諸島、トカラ列島、奄美諸島、沖永良部島に分布している。下流~上流域まで広く生息し、ある程度深さがあり、流れの速い淵の壁などに集まる傾向がある。	
確認状況	河川や湿地において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	ヤマトヌマエビの生息地は直接改変を受けず、生息環境に変化はない。一方で、飛行場の存在により移動経路の一部 (滑走路下を流下する暗渠) が改変を受ける。しかし、現況遡上阻害は発生しておらず、改変後の暗渠は現況と同程度の形状 (勾配、落差等) を維持させる計画であることから、変化は小さい。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その期間は限定的であり、地域としてヤマトヌマエビの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-114 サキシマヌマエビに係る予測結果

種名 (分類群)	サキシマヌマエビ (甲殻類)	
保護上重要な種の選定基準	文化財保護法等 : 天然記念物指定種 (県) 県保護条例 : 鹿児島県指定希少野生動植物 環境省 RL : 準絶滅危惧 県 RDB : 絶滅危惧Ⅱ類	
分布・一般生態等	体長 20~30 mm 程度の小型種。鹿児島県内では中之島、喜界島、沖永良部島、与論島から知られている。山間を流れる河川の石の下や泉、崖からしみ出た水が集まる側溝などに見られ、洞窟内にも生息する。	
確認状況	湿地において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	サキシマヌマエビの生息地は直接改変を受けず、生息環境に変化はない。以上より、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。